

エグゼクティブ・サマリー

COVID-19のパンデミックによって、前例のない難題が課せられている中、当局では、アメリカ疾病管理予防センターおよび州や地元政府の公衆衛生に関するガイドラインを十分に維持しつつ、確実に透明性のある選挙を実施するように心がけています。

2020年4月7日のWestminster市特別リコール選挙において、選挙資料が有権者に送付された後に、全て郵便投票による選挙を実施するようこの知事の行政命令が出されました。当局では、直接投票の中止、当事務所への一般の入室禁止、ソーシャルディスタンス、およびそうした変更事項の一般への告知を含め、行政命令を遵守するために業務の効率化を図って迅速に対応しました。選挙業務を素早く調整したこの経験を活かし、2020年5月19日のSanta Ana市特別リコール選挙は、知事が同様の行政命令を発令したことを受けて、全て郵便投票による選挙として問題なく実施する備えができていました。その後、当局はWestminster市特別リコール選挙の再集計、および2020年の5月と6月の自動集計監査においても、引き続き公衆衛生の対策を実施することができました。

COVID-19の環境において二度の選挙を実施した経験と、2020年11月3日の大統領総選挙に向けての準備を踏まえ、このCOVID-19レポートは、選挙の健全性と透明性に適った有権者への十分なサービスを維持しながら、安全に選挙を実施するために必要な変更事項の基本的概要を提示するものです。このレポートでは、Orange郡登録事務局が以下の事項をどのように実施する予定かを提示しています。

- 投票センターにおける直接投票期間の11日間から5日間への短縮。
- 州および郡の公衆衛生基準に準拠して、投票センターの顧客サービス担当者および有権者の安全を守るための、健康および安全対策。
- 投票用紙を提出して投票する際の安全を確実にするために有権者が取れる対策。
- California州選挙法規セクション14201で義務付けられている教育とアウトリーチのために追加する言語。

公平で透明性のある健全な投票機会を提供しつつ、有権者とスタッフの健康と安全を守る事を優先する心構えがあることを、再度断言いたします。

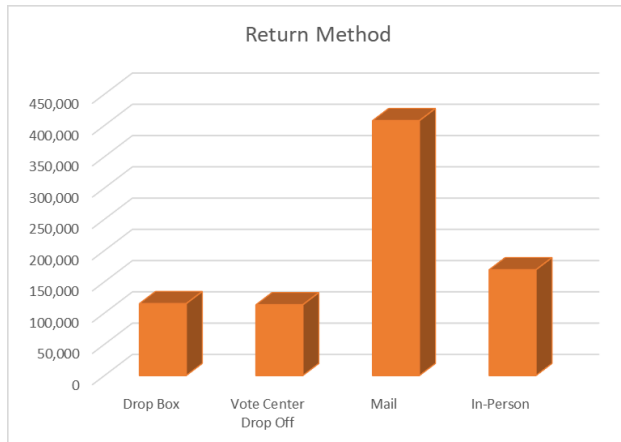
敬具、



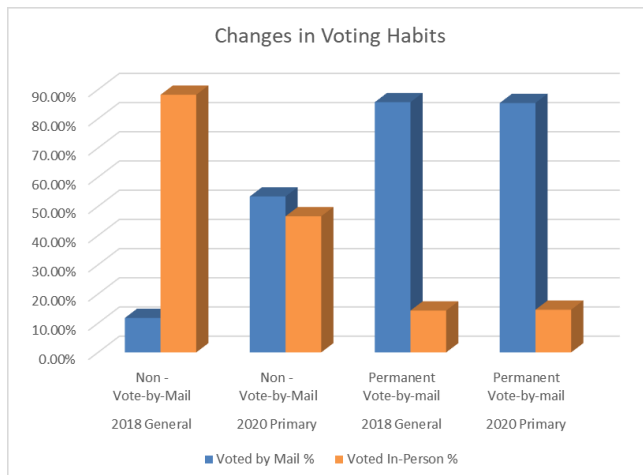
Neal Kelley
有権者登録事務局
Orange郡、CA

11日間の直接投票を5日間に短縮することが適切であることを示す根拠

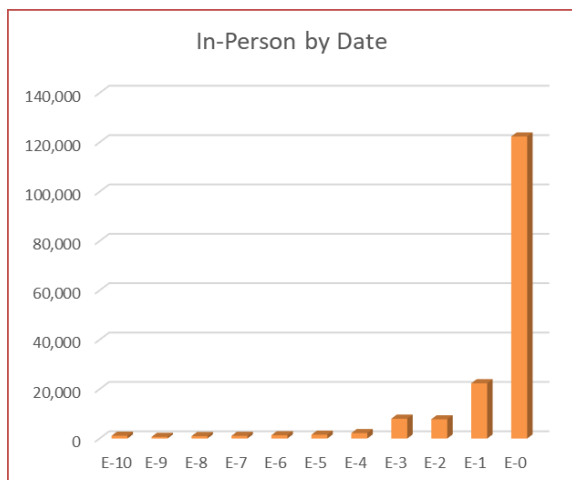
2020年3月3日の大統領予備選挙において、Orange郡有権者登録事務局（OCROV）は、初めて郡全体で投票センターモデルによる選挙を実施しました。投票者数の分析から、投票センターへの移行は有権者に前向きに受け止められている事がわかりました。事実、この選挙の投票率（50.1%）は、大統領予備選挙としては2000年以降最高でした。また、投票者の82%が郵便投票を選択し、投票場所で直接投票することを選択したのは18%にとどまりました。



過去の大きな選挙と比較すると、COVID-19のパンデミック以前から、郵便投票を利用する有権者が増える傾向がみられています。



直接投票の場所が少なくなっているにもかかわらず、有権者は任意の投票センターで選挙日の前までに投票できるという機会を活用しています。早期投票期間の最初の七日間に投票センターを訪れた有権者はほとんどなく、選挙日の前の週末になってから投票を行っています。これには、政治的な動きが起こるのを待っていたことや、投票最終日が近づくにつれて投票しなければという気持ちが高まることなど、いくつかの理由が考えられます。



今後選挙日までどのような変化が生じるか不明であることを踏まえ、OCROVでは、満足できる投票体験を提供するため、有権者に最適なサービスができるように積極的に策を講じ、有権者の行動パターンの分析を行っています。投票者の行動パターンの分析結果から、投票センターの営業を選挙日前の四日間のみにするというOCROVの一部免除の要請は、直接投票の必要に応じることと、直接投票の需要が非常に少ない時に投票センターのスタッフが不必要に危険にさらされることを最小限に抑えることとの均衡を持たせたものと言えます。

投票センターにおける健康と安全に関する最善策

COVID-19に対応するための条件が現在導入されていますが、施設確保のプロセスでは、従来から、大きな部屋のある施設が好まれてきました。ソーシャルディスタンスのガイドラインを考慮すると、スタッフと有権者の安全を確実にするためには、広いスペースを確保することが非常に重要です。施設確保の初期段階において、OCROVは自治体のパートナーや公共機関と協力して、利用できる施設をすべて挙げるようにします。

投票用の大型スペースを探すことに加え、OCROVでは、ドライブスルーで投票用紙を投函できるような広い駐車場のある施設も考慮することで、ソーシャルディスタンスを可能にし、投票用紙の提出方法の選択肢を増やすことにもなります。さらに、投票用の部屋の入口の外に広いオープンスペースを持つ施設は、有権者が列に並ぶ際に十分なソーシャルディスタンスを維持できるため、望ましいと言えます。OCROVではまた、使用を考えている部屋の収容人数上限の調整など、これらの施設が、あらかじめ定められたCOVID-19対応のガイドラインや手順を持っているかどうかも、考慮の対象にしています。

COVID-19の問題を踏まえ、OCROVでは、老人ホームなど特にCOVID-19によるリスクの高い人たちが利用し、その人たちにサービスを提供している施設の利用は、今後も避けるようにします。OCROVはまた、学校内のセキュリティを重視する心構えを継続しており、このため施設選定のプロセスにおいて学校は意図的に除外し、その代わりに学校区のオフィスを対象として検討しています。ただし、OCROVは大学、カレッジ、コミュニティカレッジのキャンパスに投票センターを設ける努力は継続します。

投票センターの設備配置については、有権者のバリアフリー環境の需要に応え、各投票場所の多様な形や広さに対応でき、また各投票ブースの間や、列に並ぶ場所、また投票のスペース全体において、ソーシャルディスタンスが取れるようスペースの最低条件を満たすことが必要です。

オンラインおよび対面のいずれの研修においても、CSRは、投票センターおよび投票用機材の適切な清掃と消毒の方法について指導を受けます。これにより、CSRが投票センターで業務につく際にこれらの作業を行うための備えになるだけでなく、次のCSRのため、および後に続く対面指導による研修のために、訓練機材が清潔に維持されることとなります。

訓練用機材が定期的に清掃されるよう、対面指導の研修の際に、業務開始と終了の手順に従った作業を行います。CSRは、大勢の人が使用する、あるいは触るものの表面の拭き掃除を、一日を通じて定期的に行うよう指導されます。これには、取っ手、タッチペン、受け付けテーブル、投票ブース、およびスクリーンが含まれますが、これに限定されません。CSRは全員、研修中および投票センターにおいて、安全で健康的な環境を維持するために、共用物の表面をいつでも清掃できる状態であることが求められます。

CSRは、消毒の場所や作業の時間、頻度、および清掃に使用する用具を定めた規定に従い、一定のスケジュールで清掃および消毒作業を行うように訓練されます。投票期間中、毎日のガイドとして使用する日々のチェックリストがCSRに渡されます。

特にリスクの高い有権者がいるかもしれないことを考え、その保護のため、頻繁に人の手が触れる表面や投票ブースは、一回の使用ごとに消毒することが義務付けられます。これには、頻

繁に人の手に触れる電子有権者名簿、タッチペン、手すり、ドアの取っ手、修正用機材、プリンター、プリンターのテーブル、ヘッドフォン、生体認証モニタリング機器のタッチコントローラー、および投票ブースなどが含まれます。各有権者が未使用の清潔な機材を使えるよう、使い捨てペンやヘッドフォン用の一回使用使い捨て耳カバーが提供されます。

選挙法規§14201により、OCROVは、特定選挙区において翻訳された参考用投票用紙を提供すること、およびタガログ語、ファルシ（ペルシャ）語、日本語、ヒンディー語、およびグジャラート語の参考用投票用紙が特定選挙区で提供されている旨を示すサインを設けることが義務付けられています。翻訳された参考用投票用紙は、すべての投票センターでバインダーに綴じられてテーブルに置かれており、また有権者は参考ガイドとしてコピーを受け取ることができます。投票センターで翻訳された参考用投票用紙を受け取るのに加え、上記言語の一つを翻訳選挙資料の希望言語として選び、特定選挙区内の住所で登録している有権者には、翻訳された参考用投票用紙が郵送されます。COVID-19への対応として、翻訳された参考用投票用紙は、一回の使用ごとに拭き掃除と消毒ができるよう、ラミネート加工されます。

さらに、COVID-19のリスクが特に高い人の保護のために、OCROVは各投票センターにおいて、以下の措置を講じます。

- CSRのための、個人保護用具（手指消毒剤、手袋、マスク、フェイスシールド、ティッシュ）
- 投票センターの内外におけるソーシャルディスタンスの規則を説明したサインの増設
- 道路脇での場外投票オプション（可能な場合）の増加
- ドライブスルーによる投票用紙投函オプション
- 全ての修正用機材を含めあらゆる投票用機材の定期的な消毒作業のための清掃用品（除菌ワイプ、ペーパータオル、手を触れないゴミ箱、布用除菌薬などが含まれます）
- 複数の有権者が触れることを最小限に抑えるための、使い捨て用品（ヘッドフォンの耳カバー、ペン、秘密保守用フォルダー）
- 手指消毒剤が用意されます
- CSRが手渡ししたり、ロールになっているものを置いて有権者が自分の手で触って取っていくのを避けるため、「投票しました」のステッカーのディスペンサー
- VIGや投票用紙見本などのデジタル資料の奨励

上記で説明した通り、2020年11月3日の大統領総選挙において、安全でバリアフリーの、確実な直接投票のオプションを提供するために、OCROVは、投票センターの業務に、スタッフと有権者の健康と安全を優先するあらゆる必要な調整を加える予定です。

安全な投票オプション

郵便投票

州下院議案860号に基づいて、California州の登録有権者は全員、郵便投票用紙を受け取ります。Orange郡は、2020年3月3日の大統領予備選挙のために機材を取得し、業務内容を更新して、有権者全員に投票用紙を問題なく郵送しました。OCROVは、2020年11月3日の大統領総選挙においても同様に行うための必要な機材と経験を持っています。

郵便投票用紙の郵送は2020年10月5日、火曜日に開始し、五日以内に完了します。有権者が自分の投票用紙の状況をチェックするには、投票用紙が、OCROVから発送された、米国郵便局で受領された、配達途中にある、OCROVに返送途中、そして処理され受理されたことが、リアルタイムで更新されるOCROVの投票用紙追跡システム、OC投票用紙エクスプレスを利用することができます。有権者の希望で、電子メールまたはテキストによって通知を受け取ることができます。

リモートアクセス郵便投票

州下院議案860号の可決により、以前は障害者、海外居住者、および軍関係者に利用が限定されていたリモートアクセス郵便投票（RAVBM）システムが、全ての有権者に利用できるようになりました。したがって、有権者へのメッセージが、この投票方法を知らせるように変更されます。最近の特別選挙において、RAVBMのメッセージは以下のように変更されました。「リモートアクセス郵便投票は、障害を持つ有権者、COVID-19によって医療上の影響を受けた有権者、および海外居住の有権者に、郵便投票用紙を電子フォーマットで受け取ることを要請するオプションを提供するものです。」このメッセージは有益なものではありましたが、2020年11月3日の大統領総選挙では、「医療上」という言葉を削除して変更する必要があります。それによって、この投票オプションを行使するには、隔離された状態にあるか、COVID-19に感染していないと誤解を回避することになります。

有権者がOCROVのウェブサイトでRAVBMの情報を容易に見つけることができることが重要です。OCROVは、RAVBMに関して出されるどのような情報にも含める、より簡素化したメッセージを作成することに取り組んでいます。例えば、「RAVBMを使って、投票用紙へのアクセスから、印刷、マーク付け、そして郵送まですべて自宅で。」といったようなものです。明確で簡潔なメッセージが、有権者情報ガイド（VIG）、当局のウェブサイト、RAVBMのポータル、そしてソーシャルメディアに掲載されます。動画や情報パンフレットなど、その他の教育的資料を作成して、OCROVのソーシャルメディアにアップしたり、追加のアウトリーチとしてバリアフリー環境に取り組むパートナーに送付したりすることも考えられます。

投票用紙投函箱

有権者は、Orange郡内全域にわたり110カ所以上の便利な場所に設置され、投票用紙の郵送後毎日24時間一般に利用できる投函箱に、投票用紙を投函することもできます。ほぼすべての投函箱は、2020年3月3日の大統領予備選挙の際に有権者が利用したのと同じ場所に設置されます。さらに、投函箱の設置場所のリストが、有権者情報ガイドおよびオンラインのocvote.comに掲載されます。

投函箱から投票用紙を収集する際、各投票用紙収集チームは清掃用具を持ってきて投票用紙投函箱を清掃します。これには、多目的クリーナー Sprey、イソプロピルアルコール、雑巾、清掃用スポンジ、およびニトリル手袋が含まれます。投票用紙は、両方のスタッフが監視する中で、車に積み込まれます。チームは、投票用紙投函箱の場所への到着時と出発時には常に OCROV と無線通信状態を維持します。

投票センターでの直接投票

直接投票の場所で健康と安全を守るために OCROV が講じている措置については、投票センターにおける健康と安全に関する最善策の前セクションを参照してください。

California州選挙法規セクション14201で義務付けられている教育とアウトリーチのために追加する言語。

Orange郡の多様なコミュニティは、他言語メディアを含めて多様な情報源から最新ニュースや情報を得ています。OCROVは他言語コミュニティとの連絡担当として専門のフルタイムスタッフを置き、スペイン語、中国語、ベトナム語、韓国語、ファルシ（ペルシャ）語、タガログ語、グジャラート語、ヒンディー語、および日本語を話すコミュニティの他言語メディアパートナーとの強力な関係を構築しました。次の選挙に関する情報と、フリーダイヤルによる有権者支援ホットラインが、他言語メディアのパートナーと共有されます。

OCROVでは、短いものから長いものまで、様々なテーマを扱った70以上の（すべての必須言語に翻訳された）ビデオを作製しています。これらのビデオは、選挙の日時や投票用紙の多様な提出方法を有権者に知らせることを目的としたものなど、情報や指示を伝える内容になります。撮影はOrange郡内全域の様々な場所において行われ、投票センターのレイアウトの例を示して、ソーシャルディスタンスを維持しながら、安全に投票用紙を提出する方法が示されます。これらのビデオは、オープンキャプションで、聴覚に障害があるか全く聞こえない、あるいは視覚に障害があるか全く盲目の有権者にも利用できるよう、バリアフリーのフォーマットになります。さらに、ビデオはスペイン語、ベトナム語、中国語、韓国語、タガログ語、ファルシ（ペルシャ）語、グジャラート語、ヒンディー語、およびタガログ語で吹き替えられます。コンテンツは一般メディアと他言語メディアのパートナーに提供されます。

言語支援を要請する有権者に対する対面の補助に加え、全ての投票センターにおいてビデオ会議による多言語支援が提供されます。これにより、投票センターに実際にバイリンガルのスタッフがいない場合でも、言語支援の必要な有権者が訓練されたバイリンガルスタッフと話ができるようにして、音声と視覚によって、投票プロセスに有意義に参加できるよう確実にガイドが受けられるようになります。支援を要請する有権者の希望に応じて、電話による支援も利用できるようにします。

最後に、投票権法セクション203および選挙法規セクション14201に従い、OCROVはコミュニティのパートナーとバイリンガルのワークショップ（英語、可能な場合はその言語、またはその両方で）を2020年8月と9月に渡って主催し、2020年11月3日の大統領総選挙での投票と選挙において今後施行される変更事項に関して、他言語コミュニティに伝えることにしています。この文書の出版時点で、可能性のあるコミュニティパートナーが列挙され、計画が進行中です。

まとめ

この文書の出版時点で、計画はすでに大きく進んでおり、州務長官などの政府機関が追加のガイダンスを発表し、COVID-19に関する情報が増えるにつれ、変更が迅速に加えられています。直接投票の場所を確保し、機材を用意し、用具や備品を取得する時間が限られている中、当局の分析と取り組みにより、投票センターを五日間開くことで、全ての場所における直接投票の需要は満たされるという十分な根拠が示されていると確信しています。

新たな問題や状況の変化が生じた場合は、有権者とスタッフの健康と安全を守るための追加の措置が講じられます。既知の、および予測される事項に基づき、この急速に変化している危機状況の中で、Orange郡が公衆衛生の課題に十分対応できる状態になるよう、OCROVは以下の事項によって積極的な対処に努めました。

- 直接投票用に、有権者の健康と安全を守るためのペン、除菌ワイプ、フェイスカバーなどの使い捨て用品の提供
- 候補者や一般がサービスや情報をバーチャル形式で受けられるための手配
- 自宅や職場で一般市民が安全に選挙のプロセスを見守る方法の開発
- 投票センタースタッフのためのリモート研修の場の提供と、ソーシャルディスタンスや安全ガイドラインを守るための対面研修の見直し
- 一般の入室制限と支援業務の予約制度によるソーシャルディスタンスの遵守
- 投票と選挙に関する変更事項、および投票用紙の安全な提出方法について一般に知らせるための包括的メディア計画およびアウトリーチ計画の導入

COVID-19の環境において二度の選挙を実施した経験と、2020年11月3日の大統領総選挙に向けての準備を踏まえ、当局は、選挙の健全性と透明性に適った有権者への十分なサービスを維持しながら、安全に選挙を実施するためには、柔軟性と変更が必要だと確信しています。